

強制と甘受の鉄鎖=試験制度を粉碎せよ!

我々は何故に試験制度を粉碎すべきか。

我々は試験を受けようとする学生が最も鋭く感じているところの、試験が持つ強制力を否定するが故にである。「イヤでも受けなければならぬ」という試験が有する強制は我々がいかにか学問とかかかわるかということとは一際無関係に、我々に押しつけられている。そしてその成績の評価権限は完全に教授の独占となっている。その学問においてはより深い知識なり経験なりがあるから、それが当然であるというヴェールにおおわれて、学生管理=支配を直接的・強制的に受けているのが、試験制度なのである。

「試験はそれまでの学問的営為(授業)の総括として行う」というのが教授たちのもっともらしい説明である。言うまでもなく試験がそのような理由のみで行われるべくはない。それのみで行われるとすれば、何故にその成績の評価を教授が独占し、その成績が記録されなければ行かないのか。試験の実態は皆にこれが倒置されたものとしてある。即ち試験は「成績証明書」として現実的有効性を持つが故に行われ、受けられているものではない。ここに「学問」なるものがいかに腐敗していかにか改められているまでもなからう。生徒が根底的に持つべき批判精神など、こうした試験の両に両ともかたもなくケシ飛んでいく。従ってこの強制でしで行われる試験の最も主要な機能は、「社会の要請」=「資本の要請」に基づく学生のランク付けであり、教授は「学問」「教育」に名を借りたそのランク付けの権限を与えられているところに、「大学」その存在基盤を有している。学生はその強制を甘受することによって自からの社会的価値(商品価値)を与えられるのである。現行大学における支配=被支配の階級的構造の基軸はここにある。

我々はこの強制と甘受による権力支配の鎖を、試験粉碎によって断ち切りねばならない。学生としての解放、「学問」「教育」の解放をこの基軸を打破することに求めねばならない。

かなり画線的・大ざっぱなのがあるが、以上の基本的確認をふまえて、まずオニに成績評価権を教授から剥奪することを訴える。オニに成績の一際記録類をファイリングキャビネットから追放すること、即ち具体的には成績証明書類の完全な撤廃を勝ちとることを訴える。

オニの課題においては試験の形態的変革、オニの課題においては機能の変革がそれらこれ、合わせて現行試験制度の更なる粉砕は貫徹し得る。大学における支配=被支配の構造に亀裂を生ぜしめる端緒となり得よう。それはとりもなおさず、現行教育秩序=労働力再生産工程にクサビを打ち込み、階級闘争のオニ歩となり得よう。

試験制度粉碎の叫びは我々にとって最も困難な課題であり、最も重要な課題である。

教育・学問の本質と全く無関係な試験制度の一際を拒否せよ!!

授業を学生支配権力者=教授の諸権限剥奪の場とせよ!!

日英=民衆の暴力的学内支配に転逆せよ!!